



川崎市



川崎市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

成長と成熟の調和による持続可能な SDGs未来都市

川崎市

「SDGs未来都市かわさき」の実現に向けて

●令和元年7月1日「SDGs未来都市」に選定

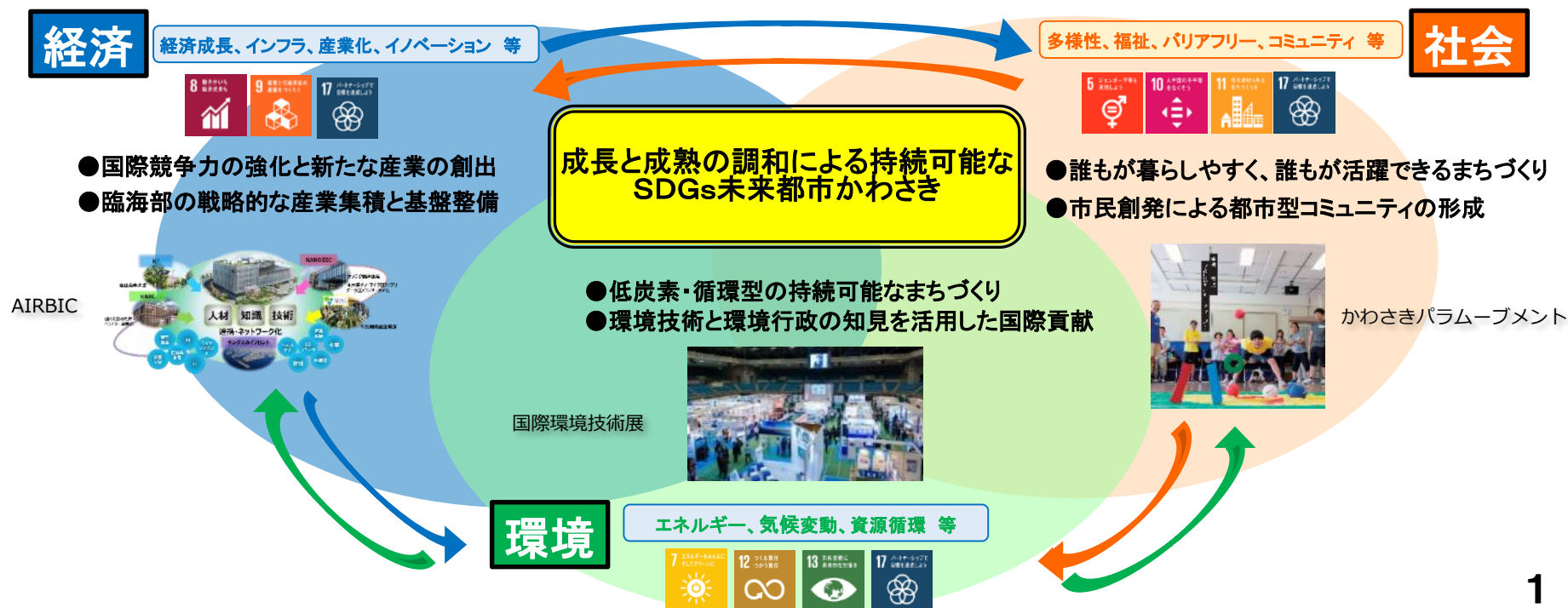
「SDGs未来都市」とは

SDGsの理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域

「SDGs未来都市」
選定証授与式
総理大臣官邸
(令和元年7月1日)



●「SDGs未来都市かわさき」として、三側面をつなぐ統合的取組を推進



「SDGs未来都市かわさき」 三側面の取組 ～経済～

力強い産業都市づくりの中心として30年後を見据えた「臨海部ビジョン」の推進

起業・創業の促進、ベンチャー支援、中小企業の競争力強化による地域経済の活性化、国際的課題の解決と持続的な経済成長を実現するイノベーションの創出に向けた取組



① 国際競争力の強化と新たな産業の創出

☆グリーンイノベーションの創出

- ・産学官民連携海外展開支援、ビジネスマッチング

☆ライフイノベーションの創出

- ・ナノ医療イノベーションセンター (iCONM) / 羽田空港近接・特区制度
- ・「体内病院」の実現

☆ウェルフェアイノベーションの創出

- ・ウェルフェアイノベーションフォーラムの開催

☆第12回川崎国際環境技術展の開催



第12回川崎国際環境技術展 (来場者数 16,900人)

「SDGs 未来都市かわさき始動!」関連テーマ

■SDGs セミナー～中小企業 SDGs 戦略～

- ・資金調達、サプライチェーン等、中小企業の戦略

■グリーンイノベーションフォーラム

- ・企業と自治体、SDGs と ESG 金融から読む

■川崎国際エコビジネスフォーラム

- ・廃棄物発電: 意思決定の仕方、SDGs への貢献
- ・SDGs を通じて実現するグリーン成長

■国連グローバル・コンパクト推進フォーラム

- ・SDGs で経営を変える

■海外販路開拓支援セミナー

- ・JICA の中小企業・SDGs ビジネス支援事業

■出展企業プレゼンテーション

- ・知的財産権、ライフサイクル評価と SDGs 等

② 臨海部の戦略的な産業集積と基盤整備

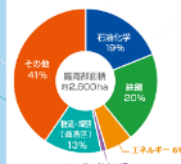
☆臨海部ビジョンの推進

- ・ステークホルダーとの共有による30年後を見据えた戦略的マネジメント

石油化学、鉄鋼、エネルギー関連施設の集積



川崎臨海部の土地利用



☆国際戦略拠点の形成

- ・ライフサイエンス分野における世界トップクラスの研究機関集積



◆キングスカイフロント
(殿町国際戦略拠点)

水素エネルギー利用促進プロジェクト(臨海部)

現状と課題

- 首都圏における**一大電力エネルギーの供給基地**
- 既に**大量の水素が利活用**されており、**インフラも構築**されている
- **地球温暖化対策**に資する**次世代型エネルギーの導入**が求められている

<発電施設の立地状況>

川崎臨海部の発電能力は**約758万kW**
(首都圏の一般家庭の消費電力は約769万kW)

JERA川崎火力発電所(火力)

浮島太陽光発電所(太陽光)

川崎バイオマス発電所(木質バイオマス)

川崎市浮島処理センター(廃棄物)

発電種類

● 火力 ● 太陽光 ● 木質バイオマス ● 風力

※首都圏は1都7県(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県、山梨県)、世帯数は約1,922万世帯

地域循環水素地産地消モデル

◎ 世界初の水素発電ホテル

昭和電工川崎事業所から、パイプラインで使用済プラスチック由来の低炭素水素を供給し、エネルギーの30%を水素発電で賄う世界初のホテル（ホテルで使用した歯ブラシ等も水素にリサイクル）



大型純水素燃料電池
(出力:100kW)

東急REIホテル（国際戦略拠点キングスカイフロントA地区）
平成30(2018)年6月 運営開始

水素サプライチェーン構築モデル

日本（川崎臨海部）－ブルネイ間の水素サプライチェーン構築実証

（次世代水素エネルギーチェーン技術研究組合：AHEAD）

内 容	
実証規模	210 トン/年 (最大)
運用期間	1 年間の予定 (2020年1月－12月)
水素供給	ブルネイ・ダルサラーム国 (水素製造)
水素需要	川崎市 (ガスタービン発電燃料)
輸 送	ISO タンクコンテナ (コンテナ船 / トラック輸送)
事業スキーム	千代田化工建設、三菱商事、三井物産、日本郵船にて、次世代水素エネルギーチェーン技術研究組合を設立 NEDO助成事業※として実施



※NEDO水素社会構築技術開発事業（助成）

「有機ケミカルハイドライド法による未利用エネルギー由来水素サプライチェーン実証」

2013年 6 月 千代田化建設-川崎市 水素社会の実現に向けた連携・協力に関する包括協定書締結

「SDGs未来都市かわさき」 三側面の取組

～環境～

温暖化対策が産業振興・防災対策・健康維持等にも寄与する「マルチベネフィット」の視点を活かした持続可能な循環型まちづくり
最先端の環境技術と環境行政の知見を活用した国際貢献

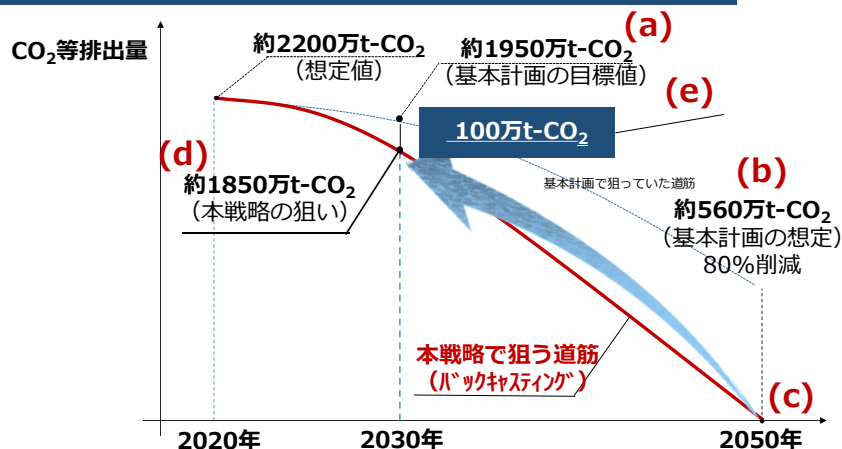


脱炭素戦略（かわさきカーボンゼロチャレンジ2050）

- 川崎市は、2050年の脱炭素社会の実現を目指すため、令和2年11月、脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」を策定
- 事業者・団体等（計304）から賛同を得ながら脱炭素化に向けた戦略を策定したのは、地方公共団体の取組としては日本初！
- 2030年度までの約10年間で、現行計画の目標に上乗せして、さらに100万t-CO₂の削減に挑戦する2030年マイルストーンを設定



2030年マイルストーン（中間目標）のイメージ図



取組の柱及び先導的に進める取組

取組の柱	2030年に向けた先導的なチャレンジ	その他の取組例
第Ⅰの柱	1 (仮称) 脱炭素モデル地区の創設など「脱炭素化に向けたまちづくり」の推進 2 将来世代に繋げていくための市民・事業者の行動変容に繋がる取組の推進 3 民間事業者等と連携した廃棄物発電等の再生可能エネルギーの地域活用 4 プラスチック資源循環の取組強化 5 気候変動適応の取組推進 6 脱炭素化に資するグリーンファイナンスの推進	① 地域の再生可能エネルギーの利用拡大 ② 市民・事業者の率先行動に向けた取組推進 ③ 産業廃棄物の処理におけるCO ₂ の発生抑制 ④ スマートムーブの推進 ⑤ 協働の取組による緑の保全・創出・育成及び活用 ⑥ 環境配慮制度の充実
第Ⅱの柱	1 公共施設への再生可能エネルギーの積極導入とエネルギー使用量の大幅な削減 2 民間事業者等と連携した廃棄物発電等の再生可能エネルギーの地域活用（再掲） 3 公用乗用自動車への電動車の導入の加速化 4 気候変動適応の取組推進（再掲） 5 職員の率先行動の徹底	① 先進的な環境技術の積極的活用 ② 環境配慮制度の充実（再掲） ③ グリーン購入の徹底 ④ 入札・契約制度による環境配慮の促進 ⑤ 港湾・物流活動のCO ₂ 削減に向けた取組の推進
第Ⅲの柱	1 グリーンイノベーションの機能強化と国際貢献の推進 2 「臨海部ビジョン」の推進による低炭素型インダストリーエリア構築に向けた取組 3 「川崎水素戦略」の推進による水素社会の実現に向けた取組 4 脱炭素化に取り組む企業への新たな支援・評価手法の構築 5 脱炭素化に資するグリーンファイナンスの推進（再掲）	① 環境技術と環境対策ノウハウを活かした事業者の取組の推進 ② 川崎工コタウンにおける脱炭素化に資する取組のショールーム化 ③ 地域の再生可能エネルギーの利用拡大（再掲）

日本初となるEVごみ収集車の導入

◎市内事業者が開発したE Vごみ収集車について、日本初となる導入を行い、C O₂・N O_xの排出のない環境にやさしいE V車を日本全国に広げていくための役割の一端を担い、環境先進都市「川崎」として、脱炭素社会形成へ貢献していく。

ステークホルダーとの連携（JFEエンジニアリングとの協働による取組）

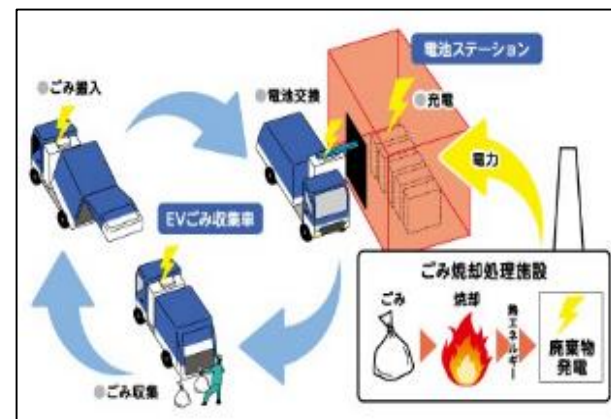
○廃棄物発電を活用したE Vごみ収集車の導入（電池交換型）（平成31年2月に導入）



導入発表会（平成31年2月7日）



導入発表会（平成31年2月7日）



廃棄物発電を活用した
「エネルギー循環型ごみ収集システム」



E Vごみ収集車と電池ステーション



E Vごみ収集車



電池ステーション

「SDGs未来都市かわさき」 三側面の取組 ～社会～

多様性と社会的包摂が浸透し、様々な個性を活かした、
誰もが活躍できる社会環境の整備と持続可能な都市基盤の構築



① 誰もが暮らしやすく、誰もが活躍できるまちづくり

☆総合的なケアの推進

- ・川崎市地域包括ケアシステム連絡協議会
- ・全ての地域住民を対象とする本市独自の取組
- ・「地区カルテ」の活用
→多様な主体による連携（自助・互助・共助・公助）

☆かわさきパラムーブメントの理念浸透と レガシー形成

- ・かわさきパラムーブメント推進フォーラム
- ・かわさきパラムーブメントかってに
おもてなし大作戦
→誰もが社会参加できる環境を創出
「多様性と社会的包摂」「ブランド力向上」



☆地方都市と連携した木材利用の促進

- ・川崎市木材利用促進フォーラム
- ・首都圏における消費地と
木材生産地である地方都市との連携協力



② 市民創発による都市型コミュニティの形成

☆「まちのひろば」の創出

- ・様々な地域資源の活用により、多様なつながりを
育む地域の居場所「まちのひろば」の創出

☆「ソーシャルデザインセンター」の創出

- ・多様な主体の連携により、市民創発によって課題
解決する「新たなしくみ」として、地域活動等を
支援しながら様々な新しい活動や価値を生み出し、
社会変革を促す基盤「ソーシャルデザインセンター」
の創出



「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」
希望のシナリオ イメージ図(2019年3月川崎市)

地域包括ケアシステムの推進

◎川崎市の地域包括ケアシステム：高齢者のみならず、全ての地域住民を対象

【意識づくり】「川崎市地域包括ケアシステム連絡協議会」の開催（参加団体数 101団体）

【仕組みづくり】在宅医療の充実と医療・介護連携の強化、包括的な相談支援体制の構築

【地域づくり】各区が策定した「地区カルテ」を活用した地域マネジメント



地域包括ケアシステムイメージ図



みまもり
近所の助け合い



生きがいづくり・健康づくり・介護予防

自助

一人ひとりの取組



ボランティア活動
町内会・自治会の活動
など

互助

近隣住民や
ボランティア団体の
助け合い



共助

介護保険制度や
医療保険制度



医療サービスの提供

公助

社会福祉などの
行政サービス



法制度に基づく支援
地域づくり支援
地域マネジメント
など



介護サービスの提供
など

川崎ブレイブサンダースとのSDGsに関する協定の締結

◎ バスケットボールを通じて市民の健康づくりや働きがいの機会創出等に
取り組むことで、SDGsの推進に資することを目的に、相互に連携、協力する。

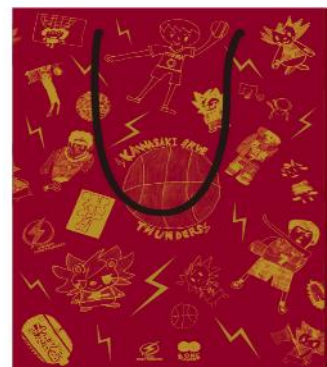
◎ プロスポーツチームの「発信力」を活かして、市民への普及促進を図る。



① 幼児用バスケットゴールの寄贈と誰でも使えるバスケットコート設置検討



② 障がいのある方々から募集したイラストを取り入れたデザインのショッピング
バックの販売と川崎にゆかりある方々が出演するショータイムの開催



③ スクール事業やふれあいスポーツ教室の開催



イメージ図

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



SDGsプラットフォーム

川崎市・地域金融機関
地元経済団体等がコアメンバーとして参加

+ 学識アドバイザー

登録団体の支援
セミナー・交流会

登録団体の支援
コンサル派遣

情報共有・交流の促進
ポータルサイトの構築

優良事例の共有
川崎SDGs大賞

団体間のマッチング
プロジェクト立ち上げ

プロジェクトによるモデル事業
伴走型支援

市民への広報・啓発
活動で参加企業の
モチベーションUP

プラットフォームを通じて
ネットワーク化

登録企業・団体

川崎市SDGs登録認証制度

プラットフォームの仕掛けにより、登録認証企業を中心としたSDGs活動を活発化

主要メンバーとして地域金融機関が参画することで、地元中小企業を巻き込んだ実のある活動に